

千葉県水道局千葉分場 1号配水池

- 構造、形式及び大きさ：鉄筋コンクリート造
梁・柱式円形水槽（半地下式）
内 径 29.0m
有効水深 4.3m
有効容量 2,770m³

- 竣工年：昭和12年
○設計者：不明 施工者：白井組
○概要

県営水道創設当時の昭和11年に給水を開始した千葉県水道事務所千葉水源工場（現：千葉分場）の付帯施設として建設された戦前の水道施設ですが、築80年が経過した現在でも千葉市内の配水を担う重要な施設です。

当施設は、当時では珍しい梁・柱式鉄筋コンクリート造の円形構造で、弁室を張出し、アールデコ調の階段や中央塔で飾られています。また、配水池上面には芝による緑化を施しているほか、正面階段部分や上部の水位観測施設に意匠を施すなど、デザインも工夫され、周辺環境との調和したシンプルで力強い印象を与えています。すでに登録有形文化財に認定されている千葉高架水槽が隣接しています。

平成22年度には、土木学会選奨土木遺産にも認定されました。



千葉県水道局栗山配水塔

- 構造、形式及び大きさ：鉄筋コンクリート造
内 径 15.0m
高 さ 31.9m
貯水容量 3,534m³

- 竣工年：昭和12年
○設計者：式田十郎（のちの水道局長） 施工者：不明
○概要

県営水道創設事業の中で、昭和15年に給水を開始した千葉県水道事務所江戸川水源工場（旧古ヶ崎浄水場）の施設の一部として建設されました。現在は、昭和33年に給水を開始した栗山浄水場の施設として松戸市一帯の配水を担うとともに、松戸給水場や船橋給水場への配水管の調圧水槽として重要な機能を果たしています。

当施設は、円筒形の高架水槽で、ドーム状の屋根の塔頂部にパーゴラ風の通気口を有しています。また、千葉県営水道史によると昭和18年頃に、太平洋戦争で攻撃目標とならないよう塔全体を黒ペンキで塗って戦禍を逃れたとされています。その後、数回にわたる補修や塗装を行いました。創設当時の原型を保っています。

当時のままの姿で栗山の高台に厳然と建っている姿は、県営水道創設のシンボルであると同時に、地域のランドマークとして貴重な歴史的景観をなしています。

平成18年度には、土木学会選奨土木遺産にも認定されました。

